

令和 8 年度 農作物病虫害発生予察 7 月月報

令和 8 年(2026年) 8 月 3 日
山 口 県 病 害 虫 防 除 所

I 気象概況

アメダス山口県防府地点

月・半旬	気 温 (°C)								
	平 均			最 高			最 低		
	本年	平年	平年差	本年	平年	平年差	本年	平年	平年差
7.1	23.7	24.7	△ 1.0	27.0	29.2	△ 2.2	21.4	21.3	0.1
7.2	26.5	25.4	1.1	29.7	30.0	△ 0.3	24.3	21.9	2.4
7.3	29.2	26.1	3.1	33.6	30.9	2.7	25.8	22.5	3.3
7.4	29.2	26.8	2.4	33.2	31.8	1.4	26.4	22.9	3.5
7.5	30.2	27.3	2.9	36.0	32.5	3.5	25.3	23.4	1.9
7.6	29.7	27.8	1.9	35.2	33.1	2.1	25.3	23.8	1.5
平均・計	28.1	26.4	1.7	32.5	31.3	1.2	24.8	22.6	2.1
月・半旬	降水量(mm)			日照時間(h)					
	本年	平年	平年差	本年	平年	平年差			
7.1	175.5	82.0	93.5	8.6	17.2	△ 8.6			
7.2	21.0	70.9	△ 49.9	33.2	19.6	13.6			
7.3	0.0	55.7	△ 55.7	49.7	23.1	26.6			
7.4	1.5	46.3	△ 44.8	38.3	26.9	11.4			
7.5	0.0	41.0	△ 41.0	60.1	30.4	29.7			
7.6	0.0	41.1	△ 41.1	57.5	39.6	17.9			
平均・計	198.0	337.0	△ 139.0	247.4	156.8	90.6			

II 作物の生育状況

- (1) イネ : 5 月までの移植では、草丈が平年並からやや短い、茎数は平年並からやや少ない。出穂期は、平年並の見込み。6 月以降に移植したものは、草丈が短く、茎数は平年より少ない。葉齢の進展は平年並。
- (2) カンキツ : 着果量は裏年傾向で少ない。果実肥大は平年並から大きい。
- (3) ナシ : 着果量は概ね平年並。果実肥大は平年並からやや大きい。

Ⅲ 病害虫の発生状況

1 普通作物

2026年7月

病害虫名	発生状況	発生地域	発生面積 (ha)	
イネ (上旬調査ほ場数:81、 下旬調査ほ場数:82) いもち病 (葉いもち)	中旬の調査では、発生ほ場率11.1% (平 年11.5%)、発病株率2.4% (平年 3.6%)、発病度0.6 (平年0.9)、病斑 の最上位葉2.7 (平年2.7) で平年並で あった。 下旬の調査では、発生ほ場率20.7% (平 年22.1%)、発病株率3.9% (平年 9.5%)、発病度1.0 (平年2.5)、病斑 の最上位葉2.6 (平年2.6) で平年並で あった。	県内全域	中	222
			少	3,462
			計	3,684
紋枯病	初発生は、7月13日(平年7月16日)で 平年に比べやや早かった。 中旬の調査では、発生ほ場率0% (平年 0.7%)、発病株率0% (平年0.1%)、 発病度0 (平年0.0) で平年並であった。 下旬の巡回調査では、発生ほ場率3.7% (平年3.7%)、発病株率0.1% (平年 0.4%)、発病度0.0 (平年0.1) で平年 並であった。	県内全域	少	666
ごま葉枯病	初発生は、7月13日(平年7月12日)で 平年並であった。 下旬の巡回調査では、発生ほ場率18.3% (平年5.9%)、発病株率5.6% (平年 1.9%)、発病度1.4 (平年0.5) で平年 に比べ多かった。	県内全域	中	222
			少	3,107
			計	3,329
縞葉枯病 ばか苗病 黄化萎縮病 萎縮病 白葉枯病	中旬、下旬の巡回調査では、発生は認め られず平年並であった。	—	—	
ヒメトビウンカ	中旬の巡回調査では、発生ほ場率9.9% (平年24.3%)、10株当たり虫数0.1頭 (平年0.6頭) で平年に比べやや少な かった。 下旬の巡回調査では、発生ほ場率18.3 (平年30.5%)、10株当たり虫数0.2頭 (平年0.6頭) で平年並であった。	県内全域	少	3,289
ツマグロヨコバイ	中旬の巡回調査では、発生ほ場率7.4% (平年19.0%)、10株当たり虫数0.1頭 (平年0.5頭) で平年に比べやや少な かった。 下旬の巡回調査では、発生ほ場率7.3% (平年23.9%)、10株当たり虫数0.1頭(平 年0.3頭) で平年に比べやや少なかった。	県内全域	少	1,316

2026年7月

病害虫名	発生状況	発生地域	発生面積 (ha)
イネ セジロウンカ	6月29日～7月28日の予察灯(県内3か所)における誘殺数は649頭(平成163頭)で平成に比べ多かった。 下層ジェット気流等の気象条件、予察灯の誘殺状況等から、6月20日(中飛来)、6月25日(中飛来)、7月1日(中飛来)、7月5日(多飛来)頃に主要な飛来があったと推測された。 中旬の巡回調査では、発生ほ場率13.6%(平成32.7%)、10株当たり虫数0.3頭(平成5.2頭)で平成並であった。 下旬の巡回調査では、発生ほ場率17.1%(平成42.5%)、10株当たり虫数0.4頭(平成7.4頭)で平成に比べやや少なかった。	県内全域	少 3,070
トビイロウンカ	6月29日～7月28日の予察灯(県内3か所)における誘殺数は19頭(平成2.1頭)で、平成に比べ多かった。 下層ジェット気流等の気象条件、予察灯の誘殺状況等から、6月20日(少飛来)、7月1日(少飛来)、7月5日(多飛来)頃に主要な飛来があったと推測された。中旬の巡回調査では、発生ほ場率0%(平成3.3%)、10株当たり虫数0頭(平成0.04頭)で平成並みであった。 下旬の巡回調査では、発生ほ場率3.7%(平成6.2%)、10株当たり虫数0.0頭(平成0.2頭)で平成に比べやや多かった。	県内全域	少 658
コブノメイガ	下層ジェット気流等の気象条件とほ場における確認状況から、6月22日(少飛来)、7月5日(少飛来)頃に主要な飛来があったと推測された。 中旬の巡回調査では、発生ほ場率33.3%(平成10.6%)、被害葉率0.2%(平成0.1%)、成虫払い出し虫数0.1頭/20回(平成0.1頭/20回)で平成に比べやや多かった。 下旬の巡回調査では、発生ほ場率62.2%(平成25.3%)、被害葉率0.4%(平成0.3%)、20回払い出し虫数0.8頭(平成0.9頭)で平成に比べやや多かった。	県内全域	中 219 少 10,964 11,183
イチモンジセセリ (イネツトムシ)	中旬の巡回調査では、発生ほ場率1.2%(平成1.0%)、25株当たりつと数0.0包(平成0.0包)で平成並であった。 下旬の巡回調査では、発生ほ場率1.2%(平成2.0%)、25株当たりつと数0.0個(平成0.0個)で平成並であった。	県内全域	少 219

2026年7月

病害虫名	発生状況	発生地域	発生面積 (ha)
イネ イネヨトウ	中旬、下旬の巡回調査では、発生は認められず、平年並であった。	—	—
斑点米カメムシ類	中旬の雑草地20回すくい取り調査では、57.4頭（平年142.3頭）で平年に比べ少なかった。主要種では、クモヘリカメムシ5.3頭（平年12.6頭：やや少）、アカスジカスミカメ32.6頭（平年107.5頭：少）、ホソハリカメムシ12.3頭（平年8.7頭：やや多）であった。 下旬の雑草地20回すくい取り調査では、52.9頭（平年126.4頭）で平年に比べ少なかった。主要種では、クモヘリカメムシ7.0頭（平年16.2頭：少）、アカスジカスミカメ14.6頭（平年80.1頭：少）、ホソハリカメムシ12.1頭（平年9.9頭：やや多）であった。 6月26日～7月25日の予察灯（県内3か所）における主要種の誘殺数は、2,911頭（平年2,648頭）で平年に比べやや多かった。内訳はクモヘリカメムシ51頭（平年33頭：やや多）、アカスジカスミカメ2,617頭（平年2,202頭：やや多）、アカヒゲホソミドリカスミカメ71頭（平年318頭：やや少）、ミナミアオカメムシ53頭（平年45頭：やや多）、イネカメムシ119頭（平年50頭：やや多）であった。	県内全域	—
ニカメイガ	6月29日～7月28日の予察灯（県内3か所）における誘殺は認められなかった。 中旬、下旬の巡回調査では、発生は認められず平年並であった。	—	—
フタオビコヤガ	6月29日～7月28日の予察灯（県内3か所）における誘殺数は12頭（平年7.9頭）で平年に比べやや多かった。 中旬の巡回調査では、発生ほ場率1.2%（平年0.4%）、株当たり虫数0.0頭（平年0.0頭）で平年に比べ多かった。 下旬の巡回調査では、発生ほ場率1.2%（平年0.6%）、株当たり虫数0.0頭（平年0.0頭）で平年に比べやや多かった。	県内全域	少 219
イネクロカメムシ	中旬の巡回調査では、発生ほ場率1.2%（平年1.5%）、25株当たり虫数0.0頭（平年0.0頭）で平年並であった。 下旬の巡回調査では、発生ほ場率1.2%（平年0.9%）、25株当たり虫数0.0頭（平年0.0頭）で平年に比べやや多かった。	県内全域	少 219

2026年7月

病害虫名	発生状況	発生地域	発生面積 (ha)																		
ダイズ 吸実性カメムシ類	6月26日～7月25日の予察灯（県内3か所）における主要種の誘殺数は86頭（平年96頭）で、平年並であった。内訳は、イチモンジカメムシ28頭（平年9頭：多）、アオクサカメムシ5頭（平年42頭：やや少）、ミナミアオカメムシ53頭（平年45頭：やや多）であった。	県内全域	—																		
ハスモンヨトウ	7月のフェロモントラップ（防府市牟礼）の誘殺数は1,454頭（前年1,291頭）であった。 6月26日～7月25日のフェロモントラップ（県内5か所）の誘殺数は3,139頭（平年2,594頭）で平年並であった。 フェロモントラップでの誘殺数（頭） <table><tr><th>地点</th><th>本年</th><th>平年</th></tr><tr><td>周南市熊毛</td><td>1,043</td><td>654</td></tr><tr><td>山口市阿東</td><td>494</td><td>554</td></tr><tr><td>萩市明木</td><td>105</td><td>169</td></tr><tr><td>下関市清末</td><td>810</td><td>760</td></tr><tr><td>柳井市伊陸</td><td>687</td><td>457</td></tr></table> ※6月21日～7月20日の合計	地点	本年	平年	周南市熊毛	1,043	654	山口市阿東	494	554	萩市明木	105	169	下関市清末	810	760	柳井市伊陸	687	457	県内全域	—
地点	本年	平年																			
周南市熊毛	1,043	654																			
山口市阿東	494	554																			
萩市明木	105	169																			
下関市清末	810	760																			
柳井市伊陸	687	457																			

2 果樹

病害虫名	発生状況	発生地域	発生面積 (ha)
カンキツ (調査ほ場数:19) かいよう病	下旬の巡回調査では、発生ほ場率10.5%（平年10.9%）、発病果率2.3%（平年1.1%）、発病度1.2（平年0.5）で平年並であった。	県内全域	中 54 少 54 計 108
そうか病	下旬の巡回調査では、発生ほ場率26.3%（平年10.5%）、発病果率8.5%（平年1.2%）、発病度4.4（平年0.5）で平年に比べ多かった。	県内全域	多 54 少 215 計 269
黒点病	下旬の巡回調査では、発生ほ場率73.7%（平年56.1%）、発病果率19.5%（平年8.9%）、発病度8.7（平年2.2）で平年に比べやや多かった。	県内全域	甚 54 中 54 少 644 計 752
ミカンハダニ	下旬の巡回調査では、発生ほ場率36.8%（平年26.3%）、寄生葉率1.3%（平年3.9%）で平年並であった。	県内全域	少 376
ミカンサビダニ	下旬の巡回調査では、発生ほ場率0%（平年0.5%）、被害果率0%（平年0.0%）で平年並であった。	—	—
チャノキイロアザミウマ	下旬の巡回調査では、発生ほ場率21.1%（平年10.4%）、被害果率0.2%（平年0.3%）で平年並であった。	県内全域	少 215

2026年7月

病虫害名	発生状況	発生地域	発生面積 (ha)	
ナシマルカイガラムシ	下旬の巡回調査では、発生ほ場率21.1% (平年15.5%)、寄生果率2.3% (平年1.4%) で平年に比べやや多かった。	県内全域	中 少 計	161 54 215
イセリアカイガラムシ	下旬の巡回調査では、発生ほ場率10.5% (平年2.6%) で平年に比べやや多かった。	県内全域	少	107
ヤノネカイガラムシ	下旬の巡回調査では、発生ほ場率5.3% (平年1.0%) で平年に比べ多かった。	県内全域	少	54
ルビーロウムシ ツノロウムシ	下旬の巡回調査では、発生は認められず、平年並であった。	—	—	—
アブラムシ類	下旬の巡回調査では、発生ほ場率5.3% (平年4.5%)、寄生新梢率0.1% (平年0.1%) で平年並であった。	県内全域	少	54
ナシ (調査ほ場数:15) 黒斑病 (二十世紀:9)	下旬の巡回調査では、発生ほ場率55.6% (平年29.6%)、発病葉率0.4% (平年0.3%)、発病新梢率8.4% (平年2.3%) で平年に比べ多かった。	県内全域	少	14
黒星病	下旬の巡回調査では、発生ほ場率33.3% (平年19.4%)、発病葉率1.2% (平年0.9%) で平年に比べやや多かった。	県内全域	中 少 計	8 31 39
うどんこ病	下旬の巡回調査では、発生は認められず平年並であった。	—	—	—
アブラムシ類	下旬の巡回調査では、発生ほ場率6.7% (平年10.0%)、寄生新梢率0.2% (平年1.2%) で平年並であった。主要種はワタアブラムシであった。	県内全域	少	8
ハダニ類	下旬の巡回調査では、発生ほ場率20.0% (平年17.4%)、寄生葉率3.1% (平年3.9%) で平年並であった。主要種はカンザワハダニであった。	県内全域	中 少 計	8 16 24
ニセナシサビダニ	下旬の巡回調査では、発生ほ場率40.0% (平年36.9%)、被害新梢率17.1% (平年7.3%) で平年に比べ多かった。	県内全域	甚 中 少 計	31 8 8 47
チュウゴクナシキジラミ	下旬の巡回調査では、発生ほ場率0% (平年8.4%)、寄生葉率0% (平年0.4%) で平年に比べ少なかった。	—	—	—
ハマキムシ類 フタモンマダラ メイガ	下旬の巡回調査では、発生が認められず、平年並であった。	—	—	—
ナシヒメシンクイ	6月26日～7月25日のフェロモントラップ(萩市小川)の誘殺数は8頭(平年21.8頭)で平年に比べ少なかった。	—	—	—

2026年7月

病害虫名	発生状況	発生地域	発生面積 (ha)
果樹全般 カメムシ類 (チャバネアオカ メムシ、ツヤアオカ メムシ、クサギカ メムシ)	6月21日～7月25日の予察灯(県内4か所)における誘殺数は1,127頭(平成482頭)で平成に比べやや多かった。 6月26日～7月25日のフェロモントラップ(県内3か所)によるチャバネアオカメムシの誘殺数は15,031頭(平成7,831頭)で平成に比べやや多かった。 スギ・ヒノキの毬果量調査(県内6か所、6月下旬調査)では、スギの着果程度は平成に比べやや多く、ヒノキの着果程度は平成並であった。	—	—

3 野菜

病害虫名	発生状況	発生地域	発生面積 (ha)																		
野菜、花き類 アブラムシ類	7月の黄色水盤トラップ(防府市牟礼)の誘殺数は21頭（前年22頭）であった。	－	－																		
ハスモンヨトウ	7月のフェロモントラップ(防府市牟礼)の誘殺数は1,454頭（前年1,291頭）であった。 6月21日～7月20日のフェロモントラップ(県内5か所)の誘殺数は3,139頭(平成2,594頭)で平成並であった。 フェロモントラップでの誘殺数（頭） <table><tr><th>地点</th><th>本年</th><th>平成</th></tr><tr><td>周南市熊毛</td><td>1,043</td><td>654</td></tr><tr><td>山口市阿東</td><td>494</td><td>554</td></tr><tr><td>萩市明木</td><td>105</td><td>169</td></tr><tr><td>下関市清末</td><td>810</td><td>760</td></tr><tr><td>柳井市伊陸</td><td>687</td><td>457</td></tr></table> ※6月21日～7月20日の合計	地点	本年	平成	周南市熊毛	1,043	654	山口市阿東	494	554	萩市明木	105	169	下関市清末	810	760	柳井市伊陸	687	457	－	－
地点	本年	平成																			
周南市熊毛	1,043	654																			
山口市阿東	494	554																			
萩市明木	105	169																			
下関市清末	810	760																			
柳井市伊陸	687	457																			
オオタバコガ	7月のフェロモントラップ(防府市牟礼)の誘殺数は0頭（前年89頭）であった。	－	－																		
コナガ	7月のフェロモントラップ(防府市牟礼)の誘殺数は4頭（前年1頭）であった。	－	－																		
シロイチモジヨトウ	7月のフェロモントラップ(防府市牟礼)の誘殺数は277頭（前年92頭）であった。	－	－																		

お問い合わせ先
山口県病害虫防除所
TEL (0835) 28-1211(代)
E-mail a172011@pref.yamaguchi.lg.jp